

本年度の目指す生徒の姿

- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
- 自分の能力に気づき、主体的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重して他者と協同し、共に成長する生徒

取組の視点

- よりよく生きるための基盤となる健やかな心と身体を育てる。
- 生徒の強みや可能性を引き出し、主体的・自律的な行動につなげる。
- 仲間との信頼関係を築き、協力できる豊かな感性を育てる。
- 生徒の実態に即して、各教育活動を体系的に実施する。

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
安全・安心な 学校生活の提供	安全・安心サポート調査や巡回指導を実施しながら生徒の状況把握に努め、いじめや問題行動の起こりにくい学校づくりを進める。	本校の教育活動に関するアンケート(生徒対象)の安全・安心な学校生活に関する項目の評価が3.2以上A、3.2未満2.8以上B、2.8未満C (昨年度:4件法2.97)	B 3.17	B いじめや問題行動が起こりにくい学校づくりを一層推進するため、安全・安心サポート調査を効果的に活用する他、職員研修などを実施する。	生徒の発するSOSを丁寧にキャッチしているようだ。さらに、「他者を尊重する」、「自分を大切にすること」のために、指導の工夫を試みると良い。他方、コロナ対策では、状況の変化に応じた改善が必要だ。今後も、安全・安心な学習環境の提供に尽力してほしい。
	健康観察、校内美化、換気など日常の感染症対策を徹底することにより、生徒個々の責任ある行動を促し、感染症拡大防止のための意識を高める。	生徒アンケートを実施し、感染症に留意したと答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満40%以上B、40%未満C (昨年度:46.0%)	B 40%		
主体的・対話的な 深い学びの研究と 実践	学びの目標と評価の一体化に向けて、観点別評価に関して教員研修の内容の最適化と外部研修の積極的な紹介等の情報共有を進める。	実情に即した教員研修の実施と関連する情報の共有を進めることができたA、どちらかを進めることができたB、どちらも不十分だったC	B	B 研修は継続して教員主体のものをを行い、全体の情報共有や相互改善に取り組む。また、先進校視察を計画的に実施し、情報収集を行う。	「主体的・対話的な深い学び」を推進するにあたっては、校内研修、情報の収集と共有に努め、より具体的な改善策を講じると良い。特に、「生徒自身が『学び』によって自身の変容を実感できる」ような取組を行ってほしい。
	出席(1/5)指導において、それぞれの欠課要因や環境に応じた個別最適化と自己指導の場としての位置付けの理解の徹底を図る。	個別最適化と指導の位置付けの理解の両面を改善することができたA、どちらかを改善することができたB、どちらも不十分だったC	B		
キャリア発達・ 進路実現を促す 活動	「総合的な探究の時間」を効果的に活用し、生徒の主体的なキャリア発達・進路実現をサポートする。並行して、担任との連携により、生徒の強みや弱みに対応した進路指導に取り組む。	本校の教育活動に関するアンケート(教員対象)の「項目3・キャリア教育」の達成状況の評価Aが、30%以上A、30%未満20%以上B、20%未満C (昨年度:29.2%)	A 34.7%	B 自己理解の深化、進路情報の提供、職業観・勤労観の育成などをより一層図り、生徒の将来設計の立案と社会的移行の準備のサポートを推進していく。	生徒の実態に応じた取組が展開されている。中でも、体験活動を伴って外部人材から指導を受ける機会は、生徒の肉体的な成長に効果が絶大である。同時に、生徒による主体性を持った選択を促し、得意・不得意や適性、自身の強みを把握させる。このような進路指導をこれからも続けてほしい。
	インターシップ、ジョブシャドウイング、看護体験、介護体験、寺子屋みらい、体験学習などを通して、生徒の勤労観や職業観を育成すると共に、生徒の協働に対する意識の醸成を図る。	参加者数の合計が72以上A、72未満55以上B、55未満C (昨年度の参加者数の合計61名)	B 58名		
開かれた学校、 地域との連携・協働	多角的な視点によってHP記事を充実させ、地域の方々や受検希望者に向けてより強く学悠館の魅力と強みを発信する。	学悠館の魅力や強みを意識したHP記事(定時制)の本数が、年40以上A、40未満30以上B、30未満C (昨年度:23本)	A 45本	A 定期的に情報発信ができるように、一年を見通した計画を立てる。また多くの職員に関わってもらうことで記事の充実を図る。	『学校案内』や学校HPで積極的に情報発信が行われた結果、受験生や地域の方々に『学悠館』の教育活動や魅力が浸透してきたようだ。一方、保護者アンケートの回収率の向上が課題だ。工夫を加えて改善してほしい。
	『学悠館だより』やHPなどを通して、学校の状況やPTA活動の情報を積極的に伝える。	保護者アンケートの肯定的評価の回答率が80%以上A、80%未満70%以上B、70%未満C (昨年度:89.3%)	A 86.1%		
心身の健やかな 成長	LCD(掲示板)や掲示物、保健だよりを通じて保健指導を行い、生徒の健康に関する意識の高揚を図る。	生徒アンケートを実施し、健康に留意したと答えた生徒の割合が、80%以上A、80%未満70%以上B、70%未満C (昨年度82%)	A 81%	A 健康診断の検診受診率は昨年度とほぼ変わらなかった。さらに健康に対する意識が高まるように、保健だよりやLCDを活用し保健指導の充実を図る。	さまざまな機会を捉えて保健指導の充実を図り、生徒の健康に関する意識を高めているようだ。他方、生徒や保護者が抱える課題に対しては、教育相談・SCとの連携・情報共有などを通して「チーム支援」の体制が確立されている。ケアの必要な生徒・保護者を支える取組を継続していくと良い。また、主体的に部活動や学校行事にかかわらせることにより、健やかな心身の成長にもつながってほしい。
	生徒や保護者が抱える課題について、生徒情報交換会・ケース会議・研修会等の開催や情報共有、SCとの連携を通して、組織的な支援体制の構築を図る。	本校の教育活動に関するアンケート(教員対象)の「項目5・教育相談」の達成状況の評価Aが50%以上A、50%未満30%以上B、30%未満C (昨年度:45.8%)	A 52.1%		
	主体的に部活動や学校行事にかかわらせることにより、自分の強みや可能性に気付かせ、健やかな心と体を育てる。	生徒アンケートを実施し、特別活動の参加を通して心身の成長を実感することができた、と答えた生徒の割合が、80%以上A、80%未満70%以上B、70%未満C (昨年度:87.5%)	A 86.3%		
豊かな人間性・ 社会性の育成	LHRや学校行事を通して、多様な価値観を尊重して他者と協力したり、仲間と信頼関係を築けるようにする。	生徒アンケートを実施し、特別活動の参加を通して仲間と協力したり信頼することができた、と答えた生徒の割合が、80%以上A、80%未満70%以上B、70%未満C (昨年度:89.9%)	B 74.3%	B 体育祭や出藍祭、LHRなどの活動が、豊かな人間関係の構築に寄与できたが、出藍祭で仲間と協力的に活動することに課題が見られたので、活動の動機付けなどを工夫する。	学校行事などを実施する際には、活動の意義を共有するとともに、生徒への動機付けも確実に行うと良い。一方、「人権や多様性を学べる機会」を増やし、「他者と自己を尊重する社会」に貢献できる人材を育てていけるように、今後も共通理解のもと組織的に丁寧にサポートしてほしい。
	他部との連携、講話内容の精選、教員への働きかけなどの取組により、ルールやマナーの意識化や自己指導能力の育成を図る。	本校の教育活動に関するアンケート(生徒対象)のルール・マナーの向上に関する項目の評価が3.5以上A、3.5未満3.2以上B、3.2未満C (昨年度:4件法3.44)	A 3.55		